

Mac OS X+TeXShop+UpTeX+Sweave → PDF ファイル

図を描くには、`Sweave.engine` 中に定義した `xfigure()` を使う。

第1引数に図を描くコードをシングルクォートでくくって書く。

第2引数は図のタイトルである。

第1引数のコードで描かれるファイルは、この `.Rnw` のあるディレクトリの `figure` ディレクトリに作られる。ファイル名は、`xfigure()` の第3引数に拡張子 `.pdf` を付けたものになる (例では `figure/label.pdf`)。

第3引数は `LATEX` の `\label{}` の引数に兼用される。

以下のコードで描かれたのが、図1である。

```
> xfigure('
+ plot(Sepal.Length ~ Petal.Length, data=iris, col=iris$Species)
+ abline(lm(Sepal.Length ~ Petal.Length, data=iris), col="blue")
+ ', '図のタイトル', 'label', height=1)
```

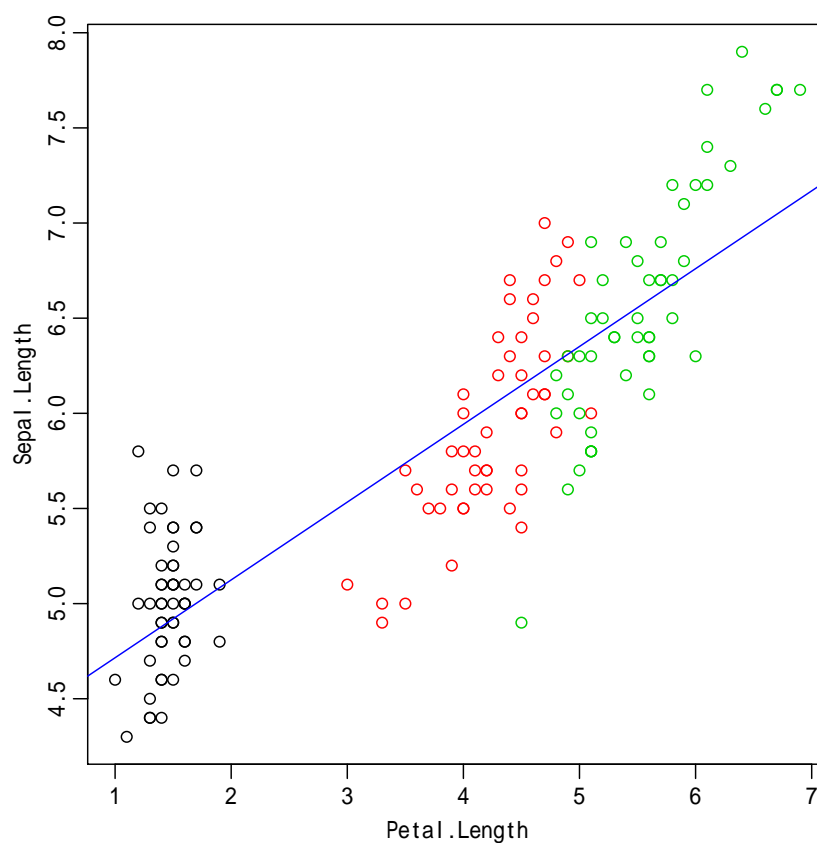


図1 図のタイトル

表1 xfigure() の引数

引数とデフォルト	説明
<code>src</code>	プログラム文字列
<code>caption = "caption"</code>	図のタイトル
<code>fn</code>	ファイル名 (L ^A T _E X の <code>\label{}</code> のデフォルト)
<code>label = fn</code>	デフォルトではない <code>\label{}</code>
<code>base = "figure"</code>	画像ファイルを置くサブディレクトリ名
<code>size = 320</code>	L ^A T _E X 文書中の図の横幅 (bp)
<code>width = size*6/320</code>	画像ファイルの横幅 (ピクセル)
<code>height = 2/3</code>	画像ファイルの横幅に対する縦の割合
<code>mgp = c(1.8, 0.6, 0)</code>	<code>par</code> で指定する <code>mgp</code>
<code>mar = c(3, 3, 1, 1)</code>	<code>par</code> で指定する <code>mar</code>
<code>rev = -3</code>	図のと表題の間隔の調整 (ポイント)
<code>htbp = "htbp"</code>	L ^A T _E X の <code>htbp</code>